乳児の気質の発達と新生児の stateに関する研究

前　川　喜　平（慈恵医大小児科）

1.　1～2カ月児用及び乳児用行動質問紙の検討と標準化

研　究　目　的

母子相互作用を考える上で乳児の気質的特徴は重要な役割を果すと考えられる。我々は，乳児の気質の他覚的評価法を標準化し，乳児の発達の理解を深めると共に育児相談などに本法を利用し，母子相互作用の円滑発表に役立てることを目的として本研究を行なった。

研　究　方　法

気質については米国のThomasとChessの研究が知られているが，我々はCareyのInfant Temprement Questionnaire を参考にして行動様式質問紙，1～2カ月児用，乳児用，1～3才幼児用の3種類を作成し，国立大蔵病院，都立荒川産院などの乳児2,000名以上に使用した。第1～2年度のTrial，pilot study を得て，57年度は1～2カ月児758名，4～11カ月児，乳児740名の資料をコンピューターに入れ，1～2カ月児用，乳児用の各カテゴリーの標本化といくつかの条件による気質の違いを比較検討した。

結　　果

1～2カ月児用，日齢30～40日までの正常1カ月児，259名について，活動性，周期性，接近，回避，順応性，反応の強さ，きげん，持続性，気の散りやすさ，反応性の閾値の9カテゴリーの標準値を算出した。条件の違いによる気質の相違は，第2子，第3子の方が同期性が規則的で，人の反応性が高く，性別では女児の方がやや人への反応性が高い傾向が認められた。母親の育児の難易度では大変であるとしたものに周期性が不規則で，自発性，人への反応性が低い値を示した。児の問題として新生児期に仮死，嘔吐，呼吸障害などを認めた者は，活動性がやや低い傾向が，SFD児では，周期性が不規則であるなどの結果を得た。

乳児用質問紙：乳児用気質調査用紙を使用した740名のうち正期産正常児で健診時になんら異常を認めない4カ月児92名，5～6カ月児81名，7～8カ月児201名。計374名について各カテゴリーの標準化をおこなった。4カ月児，5～6カ月児，7～8カ月児で各カテゴリーの比較などをおこなった。その結果4カ月児では解答不能項目が多く，本質問紙を4カ月児に使用するには不適当であるという結論を得た。それ以後の月齢では本質問紙は使用し得るという結果を得た。日米間で各カテゴリースコアには差があるが気質のタイプの頻度には差がないことが明らかになった。以上の結果により本質問紙は，乳児の気質的調査に充分使用し得るという結論を得た。

結　　語

これらの質問紙は，乳児の気質的特徴を比較的容易にとらえるのに有用であるという事を発見した。また，この質問紙は母親に記入してもらうものであるため児にもつ印象なども反映しているものと考えられる。この事はいいかえると乳児をみていく上で母子関係の中での乳児の気質的特徴といったこれまで考慮されることのなかった角度から児をみていくことも重要であることを示している。

今後，この行動様式質問紙を用いて乳児の気質的特徴をとらえて，育児指導などをおこなう予定である。さらに幼児用においても標準価をおこなう予定である。

2.　新生児のstateに関する研究：母乳の新生児行動に及ぼす影響

母乳栄養の母児相互作用に及ぼす影響について究明するために，新生児の行動の基本であるstateについて同一新生児に母乳と搾母乳またはミルクを別々に与え，それぞれの哺乳後の state を観察し授乳方式のもたらす影響について比較検討した。

研究方法

満期正常分娩で日齢６～７日の哺乳力の良い新生児を選び，母乳（breast feeding）と搾母乳またはミルク（bottle feeding）を別々に与え，哺乳後のstate を５５，５６年度はビデオテープの記録で，昭和５７年度はポリグラフを使用し胸部の心拍，呼吸，頬部の表面筋電図等をモニターしながら判定した。なお現在まで８０名の乳児についてbottle feeding，breast feedingについて検討した。

結　　果

第一にbreast feedingでは哺乳終了からstate 1（quiet sleep）に入るまでの時間が短いということと，第二にbreast feedingではbottle feeding に比較して，哺乳間のstate 1 の占める割合が大きいという結果を得た。すなわち母乳栄養では哺乳時間のあいだの安定した睡眠状態が多いということがいえる。結果は，bottle feeding の内容が搾母乳でもミルクでも同様な結果が得られた。breast feedingに対し同様の傾向を示した。

結　　語

breast feeding と bottle feedingの新生児のstate に及ぼす影響の相違は，哺乳の際の口唇の感覚，哺乳に要するエネルギー，抱かれているという満足感，母親の児への働きかけなど，いくつかの要因から成り立っている。すなわち"母乳行動"という母児のかかわり合いが新生児の行動に影響を及ぼすといえる。今後，これらの問題をさらに研究し，母乳の母子相互間に与える影響について検討する予定である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

母子相互作用を考える上で乳児の気質的特徴は重要な役割を果すと考えられる。我々は,乳児の気質の他覚的評価法を標準化し,乳児の発達の理解を深めると共に育児相談などに本法を利用し,母子相互作用の円滑発表に役立てることを目的として本研究を行なった。